

被災地でのボランティア活動を希望されている方々へ

4月14日以降、熊本を中心に九州を襲った地震のことでは、様々な情報がテレビやSNSを通じて流れており、多くの方が被災地、被災者のために「なにかしたい」「なにかできれば」と考えていると思います。中にはボランティア活動の経験がないけれど、やってみたい人もいるでしょう。

被災地でのボランティア活動を希望されている方々へ、お伝えしたいことをまとめました。

いま、被災地の中では各所で渋滞が発生し、被災者の暮らしにも影響が出ています。多くの方が個別に被災地に駆けつけることで、緊急車輛や災害復旧作業の妨げになり、さらなる渋滞や混乱が生じることが考えられます。

現場に入っている、これまで多くの災害時の支援経験を有する関係者からの情報では、「様々な災害支援の経験を持つ柔軟で、専門性の高いNPO等によるボランティア活動」が必要とされています。

気象庁の会見（4月20日）では、「熊本県から大分県にかけて活発な地震活動が続いている」「活動が収まる傾向も見られておらず、今後も強い揺れを伴う地震や、家屋の倒壊などに警戒してほしい」と言われています。

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20160420/k10010490651000.html>

つまり、現地に駆けつけたとしても二次被害の可能性が危惧されます。

現在、災害ボランティアセンターを立ち上げ、ボランティア受け入れの準備を進められています。しかし、現在も被害の全容把握が続きます。宿泊場所や食料、生活用品等の確保が困難な状況もあります。被災地の道路では家屋倒壊による交通規制や亀裂、段差による速度制限のため渋滞が発生しています。

また、ボランティア活動が開始された地域においても、雨天等の天候の変化によっては、ボランティアの安全面の確保を第一に考え、活動時間の変更や中止・中断も起こりえます。

そのため、本格的なボランティア活動の開始にはもう少し時間が必要となります。

こうした状況をふまえ、今後ボランティア活動をお考えの方は、以下の3つのことをお願いします。

1) 現地では装備品や資機材を調達することが困難な状況です

下記をご参考に、お住まいの地域で必要なものを購入してください。



参考：東京ボランティア・市民活動センター 「災害ボランティア活動の基本的な装備について」

<http://www.tvac.or.jp/news/24281.html>

2) 宿泊場所、移動手段を事前に確保すること

被災地のボランティアセンターでは、食事・宿泊場所は用意されません。被災地では、被災者や災害復旧作業のために優先的に宿泊場所を提供しています。そのため、被災地から少し離れたところで、宿泊場所を確保することをお勧めします。

3) いま住んでいる地域でボランティア保険に加入すること

現在も余震が続いていることから、ボランティア活動中に怪我や二次災害に巻き込まれる可能性もあるため、必ず天災タイプの保険へご加入ください。

いまはこういった状況ですが、少しずつ変わってきて、多くの方のボランティア活動が必要とされる時期はやってきます。そのための準備を十分にして、一緒に被災者に寄り添いながら、息の長い活動をしていきましょう。

そのほか参考情報（熊本県社会福祉協議会・ボランティア情報）

http://www.fukushi-kumamoto.or.jp/list_html/pub/detail.asp?c_id=56&id=7&mst=0&type=

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）

<http://www.shien-p-saigai.org/>

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD） 準備会

<http://jvoad.jp/>